

鹿児島の植物 71

空飛ぶタネ

植物担当 久保 紘史郎

植物は、遠くまでタネを運び、広い範囲に仲間を増やそうとしています。その方法のひとつが、空を飛ばすことです。軽い種子に綿毛や羽根を付けることで、滞空時間を長くし、風に乗って遠くまでタネを運ぶことができます。

フタバガキ（フタバガキ科）



まるで羽子板の羽根のようです。落下させると、くるくる回転しながらゆっくりと落ちていきます。フタバガキは東南アジアの熱帯多雨林に生育するフタバガキ科フタバガキ属の総称です。樹木の材はラワン材として利用されています。

メグスリノキ（ムクロジ科）



漢字で書くと「目薬の木」。樹皮を煎じた汁が目薬になるのが由来です。カエデの仲間、羽根の付いたタネがプロペラのように回転して、ゆっくりと落ちていきます。

サカキカズラ（ガガイモ科）



綿毛が付いたタネが、果実の中にぎっしり詰まっています。乾燥すると果実が裂けて、綿毛がワッと広がり、風に乗って飛んでいきます。乾燥したときに果実が裂けるのは、雨の日にタネを飛ばさないための工夫です。これは、綿毛が雨に濡れるとすぐに落ちてしまうからです。

ウバユリ（ユリ科）



果実の中に薄い膜をまとったタネが、たくさん入っています。乾燥すると果実の上部が開き、中からタネが出てきます。風に乗ってひらひらと遠くまで運ばれて、仲間を増やします。